

＜書 評＞

日野原重明・仁木久恵 訳

平静の心 オスラー博士講演集

阿部正和（東京慈恵会医科大学学長）

日野原重明・仁木久恵両先生の手になる「平静の心、オスラー博士講演集」の刊行を本当に嬉しく思う。

長い年月にわたってメディチーナの誌上、あるいは日本医事新報の誌上に紹介されてきたウィリアム・オスラー先生の講演の翻訳が、ここに集大成されて500頁余の単行本として医学書院から出版されたのである。その日に、日本オスラー協会が発会したこともまことに素晴らしいことであった。

オスラー先生は、生涯にわたって学生および看護婦を愛し、教育とくにベッド・サイドでの教育を重視し、しかも医学周辺の人文科学を理解した。実に幅の広い人であった。今の日本の医療に携わっている人たちが、あるいは将来携わんとする人たちが、オスラーの精神を理解し、それによって啓発され、現在の日本の医療に欠けているものを補って頂きたい。こう願うのは私一人ではある

まい。一人でも多くの方が、このオスラー講演集を読み、オスラーの残した数多くの言葉と精神を学びとって頂きたいのである。

訳者の一人、日野原重明先生は私の尊敬する医師であり、私は何とか先生の歩いてこられた道を歩んで行きたいと願っていた。先生の物事に対する情熱と綿密な企画力と旺盛な実行力は、とても私の及ぶところではないが、それでも何かにつけて教示を受ける光榮を有している、ありがたいことと思っている。この日野原先生がオスラー先生のとりこになったのは、終戦直後、ふとした機会に入手された、オスラー先生の「Aequanimitas」を読まれてからのようである。この本の随所に示されたオスラー先生の言葉が日野原先生に大きな影響を与え、先生が毎日毎日の仕事に全力投球をされる力になったことは間違いない。先生は間もなく「オスラー先生の伝記」を出版

されたが、今回はオスラー先生の「Aequanimitas」に掲載されている18回の講演のうちの15篇および先生の晩年に行なった講演3篇の、併せて18篇の講演内容を翻訳する作業にとりかかれたのである。10年前のことであった。英米文学に詳しい仁木久恵先生の協力を得られて難解な文章を美事に訳され、しかも講演の中に出てくる聖書やいろいろな古典の言葉について註釈を加えて下さっている。

本書を手にしたら、まず日野原先生の序文と終章の「ウィリアムオスラー卿の生涯とその業績ならびに思想について」を読まれるがよい。それだけでも本書の価値は充分にあると思うからである。

こんなに立派な内科医がこの世の中におられたのかと不思議に思われるぐらい、本書の内容は豊富であり、価値があり、教えられるところがまことに多いのである。臨床医家のみならず一般の方々が読んでも深い感銘を受けることであろう。

（A5，頁500，1983，¥3,800，
¥400，医学書院刊）